

令和 4 年度 高速増殖原型炉もんじゅ総合防災訓練で抽出した課題と対策について

1. はじめに

令和 5 年 1 月 2 4 日に実施した高速増殖原型炉もんじゅ総合防災訓練の結果を踏まえ、課題を抽出し、対策の検討を行った。対策については、次年度の訓練で改善状況を確認する。

2. 改善検討の進め方

機構内外からのコメント（訓練評価者による評価結果、訓練後の振り返り、アンケート等）から本訓練における課題を抽出した。抽出した課題について原因分析を行い、対策を立案した。

また、訓練目的や達成目標を踏まえ、重要度が高いと判断した課題を「主な改善事項」とし、訓練で抽出した具体的な問題点を含めて整理した。

3. 主な改善事項

(1) 現地対策本部

・問題点①

EAL01の事象進展対策シートの対策の方針Bの「準備」に関する項目について、災害対策資料を用いて情報共有を行わなかった。

【課題】

EAL01に係る「準備」、「対策」に関する項目について、当該EALに該当する予兆を把握した時点で災害対策資料を用いた情報共有を行うことができていない。

【原因】

EAL01に該当する予兆（14時10分のMPの指示値上昇開始）を確認した時点で災害対策資料を用いて情報共有を行うという認識が薄かった。

【対策】

- ・EALに該当する予兆を把握した時点で災害対策資料を用いて情報共有を行うことについて、現地対策本部要員に対して「発話ポイント」を用いて再教育を行うとともに、今後の訓練を通じて習熟を図っていく。

・更なる改善事項①

災害対策資料のEAL30添付図-2「EAL30使用済燃料貯蔵槽の冷却機能喪失・放射線放出 燃料池水位と放射線モニタ指示値（AL, SE, GE到達予想時刻）」に原子炉補助建物ガンマ線エリアモニタ放射線当量率の数値をプロットし情報共有していたが、測定範囲を超過した際に注釈を記載しなかったため、途中でプロットが中断された理由が分かりにくかった。

災害対策資料を用いた情報共有において、測定範囲超過により数値のプロットを中断する場合は注釈を記載することを「情報班手引き」に明記する。

・更なる改善事項②

現地対策本部内で情報共有していたERS Sのモニタリングポストのトレンド表示について、空間線量率が急上昇した際にスケール変更操作に手間取り1～2分程オーバースケールさせてしまった。

【対策】

ERS Sのトレンド表示のスケール変更操作方法を「ERS S表示用PC簡易操作説明書」に明記し配備する。

(2) 機構対策本部

・問題点①

発話時に説明内容を十分に整理できておらず、所々で発生時刻や発生場所、数値の単位が抜けた断片的な情報共有となった。また、5W1H (When (いつ)、Where (どこで)、Who (誰が・何が)、What (何を)、Why (なぜ)、How (どうやって)) の説明順が発話ごとによって変わってしまい、聞き手が分かりづらい発話を行った。

【課題】

発話前に説明内容を十分に整理してから発話できず、断片的な情報共有となった。

【原因】

- ①発話する情報の順番に留意して発話できていない。
- ②発話する前に提供する情報を十分に整理できていない。

【対策】

- ①5W1Hについての具体的な発話例を「発話ポイント」に明記し、発話順について一貫性を持たせる。
 - ・発話順の例：When (いつ)、Where (どこで)、Who (誰が・何が)、What (何を)、Why (なぜ)、How (どうやって)
 - ・発話例：「[When] ○○時○○分、[Where] □□施設の燃料プール循環系統バルブ△△において、[Who] 施設点検中の作業員が [What] プール水の漏えいを発見した。[Why] 直前に発生した地震による影響と思われる、[How] 今後の対策として漏えい箇所の隔離とプール水の補給を実施する。」
- ②発話者に対しては①を踏まえた「発話ポイント」を再教育し、情報整理担当者に対しては情報の整理について発話者を補佐できるように再教育を行うとともに、今後の訓練を通じて習熟を図っていく。

4. その他の改善事項

(現地対策本部)

No.	課題区分	課題	原因	対策
1	情報共有	モニタリングカー等の測定結果一覧表の記載に分かりにくい箇所があった。	モニタリングカー等の測定結果一覧表について、判断基準（ $5\mu\text{Sv/h}$ ）の超過やエリアモニタの測定範囲の超過など、重要な情報を識別していなかった。	モニタリングカー等の測定結果一覧表について、重要な情報を色を変える等で識別しやすくする。

(機構対策本部)

No.	課題区分	課題	原因	対策
1	情報共有	ERCが資料を十分に確認する前に、書画装置に示した資料を説明後すぐに取り下げてしまった。	ERCに対して理解を得ながら説明する、基本動作ができていない。	発話者に対して説明した資料を一呼吸おいてから動かすように注意喚起及び教育を実施する。
2	情報共有	初動時において、情報が錯綜する中でERCに対して一方的な発話を矢継ぎ早に実施してしまった。	情報が錯綜する中で複数の資料を説明する必要がある場合、次の説明に移る前に、「ここまですよろしいか？」とERC側の理解を確認する基本動作が十分身につけていない。	発話者に対して基本動作について再教育を行うとともに、今後の訓練を通じて習熟を図っていく。

以上